

新型コロナウイルス対策についての質疑

その1 酸素ステーションの充実を

医療機関にも酸素ステーションの設置を

松長 新型コロナウイルス罹患患者で医療機関に入れず自宅療養している方にとって、酸素飽和度低下に陥った場合に「酸素ステーション」が命綱となります。現在、本県では横浜市に「か所ステーション」を設置していますが、これを増やすことはできないのでしょうか。また、次善の策として病院など医療施設にステーションを設置することはできないのでしょうか。

答弁 新型コロナウイルス罹患患者で、入院できずに酸素飽和度の値が低下した場合、酸素ステーションでの酸素投与は極めて重要です。本県では今年二月に設置し、現在まで



一〇人の患者を受け入れてきました。また、すでに「地域療養の神奈川モデル」でも、酸素濃縮器を医師会に貸与し、自宅で酸素投与を行うなどの療養支援を充実させています。

しかし、それだけでは対応できない場合は、「かながわ緊急酸素投与センター」内に専用の診療所を設置し、投薬治療を開始しています。

新たなステーション設置は医療人材などの点から困難ですが、既存の病院内に併設する酸素ステーションなら設置できるといふ医療機関があれば、実現に向けた協力を行っていきます。

その2 コロナ禍の未病改善について

広く情報を活用し、

「自分ごと」として取り組んで...

松長 長引くコロナ禍によって生活習慣が制約を受け、運動不足、インスタント食品の多食、対面会話の減少などによって、心身の調子を崩したいわゆる「未病」に陥り、さらにその症状を悪化させている人が増えているのではないかと懸念されます。適度な運動や適切な食事の摂取などを心がけ、心身の健康を維持するよう発信し、未病の防止・改善に努める必要があるのではないのでしょうか。

答弁 ご指摘の通りで、日常生活の中で未病改善に取り組む必要性が高まっています。「心の未病改善」については、心のセルフケアに関するチラシの作成やストレスチェックのできるアプリの紹介など

を強化。また、相談窓口やうつ病の情報を提供するホームページを開設しました。「体の未病改善」については、自宅でできる簡単なストレッチを企業と共催し、オンラインセミナーで紹介。また「かながわ健康財団」と連携した健康情報の発信などに取り組まれました。また食生活の改善、栄養バランスの知識、野菜を多く使ったレシピ等の動画配信を行っています。今後もストレス解消法や室内でもできる運動、バランスのよい食事等について「自分ごと」として取り組んでいただけるようホームページにまとめて情報発信していきます。



水道スマートメーターの導入について

通信インフラの標準化や導入経費などの問題があつて遅れているスマートメーターの導入促進について、質し①県内の水道業者と連携してスマートメーターの標準化に取り組み②経産省が主導する電気・ガス・水道の共同検針に向けた会議に企業庁が加わり、既に運用されている電気分野の通信インフラを共同使用する方法について検討する、などの回答を得ました。

*スマートメーターとは、通信機能を備えた水道メーターで、現在の検針員による二カ月ごとの訪問による検針が必要になり、経営の効率化が図れます。



皆さまのご意見お待ちしております。お気軽にご質問。藤沢市辻堂3-6-3 TEL 042-2669 FAX 042-8806 メール tatshin@opal.dti.ne.jp